

平成22年 9月 3日
独立行政法人
日本原子力研究開発機構
敦賀本部

高速増殖原型炉もんじゅの炉内中継装置落下に係る調査状況について

高速増殖原型炉もんじゅ（定格出力28万kW）は、現在、燃料交換作業の後片付け作業中ですが、8月26日、原子炉建物において炉内中継装置*1を取り外す作業中に、原子炉容器内より約2m位吊り上げた位置から落下しました。その後の調査により、原子炉機器輸送ケーシング（AHM*2）吊り上げ装置グリッパの爪*3を開閉する「爪開閉ロッド」が、正しい状態から約90度回転していることを確認しました。また、8月30日から9月2日にかけて炉内中継装置の上部フランジ面までの距離のレーザーによる距離の計測結果や駆動軸の挿入確認の結果、炉内中継装置が正規の位置に保持されていることを確認しました。

【8月26日、8月29日、9月2日お知らせ済み】

【AHMの吊り上げ装置グリッパ部の点検】

AHM本体を原子炉上部から取り外し、8月31日、メンテナンス・廃棄物処理建物へ搬送を行い、9月1日、内部のガス置換を実施し、2日より3日にかけて、グリッパ部の点検を行いました。

その結果、グリッパ部においては、2つあるグリッパ爪のうち、270度方向に設置されている爪において、爪の両端においてずれ痕が確認されました。90度方向の爪については、ずれ痕は無いものの、傷が確認されました。

今後、グリッパ爪とパワーシリンダなどの詳細な調査等を実施するとともに、原因調査を継続して行ってまいります。

*1：燃料交換時に炉心と燃料出入設備との間で炉心構成要素を移送する燃料交換設備の構成機器の一つ。

*2：AHM (Auxiliary Handling Machine)

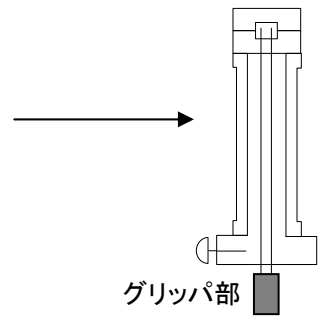
*3：グリッパに取り付けてある、炉内中継装置を掴むための爪のこと。

以上

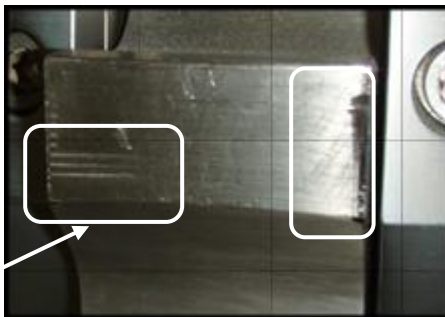
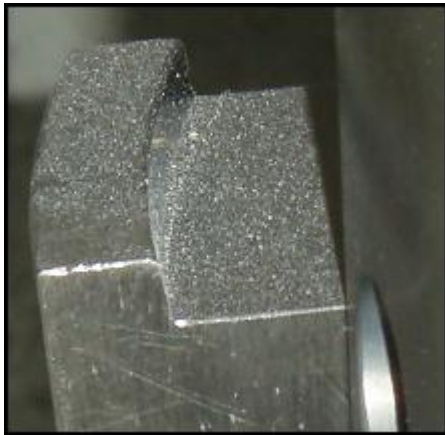
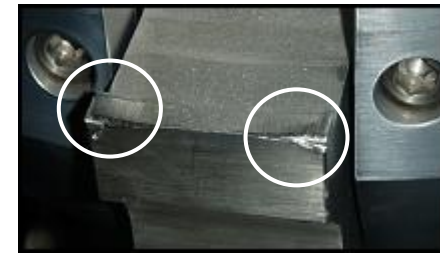
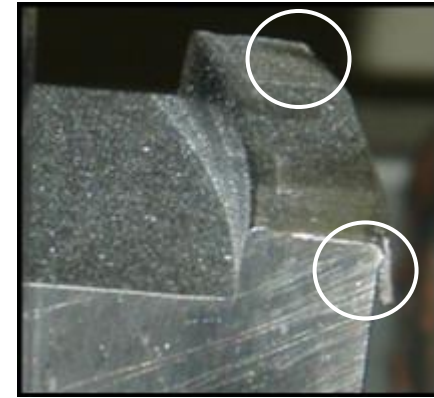
メンテナンス・
廃棄物処理建物



原子炉機器輸送ケーシング

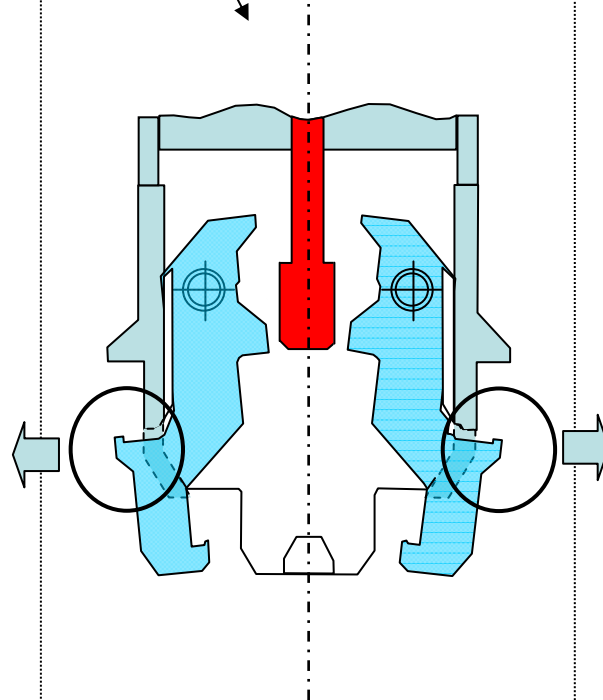


グリッパ部



傷

90° 方向の爪



ずれ痕

270° 方向の爪